

2022年度  
[2022年4月1日～2023年3月31日]

## 事業報告

# 目 次

2022年度事業報告（総括）	1
I. 科学技術振興に関する活動の概要	2
I-1. 研究助成	2
1. 募集・応募・選出状況	2
2. 助成件数の推移	3
3. 第38回(2022年度)マツダ研究助成一覧	4
4. 第38回(2022年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	5
I-2. 事業助成	6
1. 募集・応募・選出状況	6
2. 助成件数の推移	7
3. 第38回(2022年度)マツダ事業助成一覧	8
I-3. 科学わくわくプロジェクト	9
II. 青少年健全育成に関する活動の概要	10
II-1. 研究助成	10
1. 募集・応募・選出状況	10
2. 助成件数の推移	11
3. 第38回(2022年度)マツダ研究助成一覧	12
II-2. 市民活動支援	13
1. 募集・応募・選出状況	13
2. 支援件数の推移	14
3. 第38回(2022年度)マツダ市民活動支援一覧	15
II-3. 感動塾・みちくさ	16
II-4. スタートラインプロジェクト	17
II-5. 若者×ツナグバ	18
II-6. 第40回講演会	19
II-7. 大学寄付講義の実施概要	20
III. 管理事項の概要	21
I. 役員等に関する事項	21
1. 2023年3月31日現在の役員・評議員の名簿	21
2. 役員等の異動状況	21
II. 職員に関する事項	22
III. 理事会・評議員会等、主な活動事項	22
IV. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	23
V. 登記に関する事項	23
VI. 附属明細書	23

## 2022年度 事業報告（総括）

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益低下の影響を最小限に抑え、最大限の社会貢献に資するべく創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携して実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、実践的な市民活動研究や地域密着の活動支援に助成を行い、研究と活動の融合、広島・山口の市民活動団体の交流会など活動の連携・活性化を継続強化しました。「若者×ツナグバ」は若者自立支援をテーマに、公募で選び直接支援する形で若者との対話を推進しました。「大学講義」は対面にて授業を実施しました。NPO法人ピピオ子どもセンターと連携し被虐待児の自立を支援する「スタートラインプロジェクト」事業は環境変化に対応した支援活動を充実させました。「講演会」では、井村雅代氏を講師にお招きし「人を育てる」と題し実施しました。「感動塾・みちくさ」は2019年以降コロナ禍で中止が続きましたが3年ぶりに体験宿泊学習を実施しました。

### 科学技術振興関係

#### ① 研究助成

機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野を対象に31件3,100万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。（国内／公募）

#### ② 事業助成

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に13件233万円の助成を行いました。（中国地方／公募）

#### ③ 科学わくわくプロジェクト

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指し「サイエンスレクチャー」「ジュニア科学塾」、教員支援として「小学校理科ひろば」を実開催しました。（連携事業／参加者公募）

### 青少年健全育成関係

#### ① 研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究5件に計400万円の助成をしました。（国内／公募）

#### ② 市民活動支援

青少年の心豊かな成長に繋がる民間の非営利活動30件に計800万円の支援をしました。（広島県・山口県／公募）

#### ③ 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で3年ぶりに体験宿泊学習を実施しました。（連携事業／参加者公募）

#### ④ スタートラインプロジェクト

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実を支援する事業を実施しました。（連携事業／公募）

#### ⑤ 若者×ツナグバ

若者が社会に希望を持ち自立していくことを目指し、地域社会における若者非営利活動を支援しました。（広島県・山口県／公募）

#### ⑥ 講演会の開催

第40回講演会として、本年度は講師にアーティストックスイミング元日本代表ヘッドコーチの井村雅代氏を迎え、広島国際会議場にて開催しました。

#### ⑦ 大学寄付講義

広島市立大学で「地域ボランティア活動」の対面での集中講義、実習を行いました。

事業の概要を以下に記します。

# I. 科学技術振興に関する活動の概要

## I-1. 研究助成

### 1. 募集・応募・選出状況

#### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

##### (a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

##### (b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③化学系材料、④物理系材料の4分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法	公募
(d) 助成金総額	3, 100万円
(e) 助成件数	31件 (1件あたり100万円)
(f) 助成期間	1年または2年
(g) 募集期間	2022年4月11日～5月31日

##### (h) マツダ研究助成奨励賞

マツダ研究助成対象の中から若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした研究に対して授与する。

① 副賞(追加助成金)	50万円/件
② 追加助成金総額・件数	200万円、4件

#### (2) 応募状況

合計240件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・ 中部以東	132件 (55%)
	・ 関西以西	108件 (45%)
(b) 分野別	・ 機械	49件 (20%)
	・ 電子・情報	45件 (19%)
	・ 化学系材料	76件 (32%)
	・ 物理系材料	70件 (29%)
(c) 若手研究者(35才以下)		83件 (35%)

#### (3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月29日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として31件(内、研究助成奨励賞候補4件)が選出され、第53回理事会において正式に承認決定されました。

#### (4) 助成贈呈書の贈呈

広島大学の4名は広島大学にて贈呈式を行い、他は申請代表者に贈呈書を贈りました。

## 2. 助成件数の推移－科学技術振興関係－

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第38回) 2022年度	第37回 2021年度	第36回 2020年度
応募件数(件)	240	295	323
助成件数(件)	31	31	31
助成比率(%)	12.9%	10.5%	9.6
助成金総額(万円)	3,300	3,300	3,300

(地域別状況)

地域	2022年度		2021年度		2020年度	
	件数	内数	件数	内数	件数	内数
中部以東(件)	132	13	164	16	189	13
近畿(件)	60	6	64	8	67	8
中国・四国(件)	30	10	43	5	40	3
九州・沖縄(件)	18	2	24	2	27	7
合計(件)	240	31	295	31	323	31

(分野別状況)

分野	2022年度		2021年度		2020年度	
	件数	内数	件数	内数	件数	内数
機械(件)	49	6(4)	67	7(4)	71	7(3)
電子・情報(件)	45	6(3)	68	7(3)	72	7(1)
化学系材料(件)	76	10(7)	82	9(9)	87	8(6)
物理系材料(件)	70	9(3)	78	8(5)	93	9(3)
合計(件)	240	31(17)	295	31(21)	323	31(13)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時  
( )内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第38回(2022年度)マツダ研究助成一覧  
 ー科学技術振興関係ー

助成対象研究の概要は、以下の通りです

◇印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは研究助成奨励賞受賞

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>【機械】</b>		
大規模な変形を伴う声道の流体構造音響連成解析	山本 高久 岐阜工業高等専門学校機械工学科 准教授	S 150
先天的に鼻咽腔閉鎖不全を有する患児の場合、声道(咽頭、口腔)を正しく動かすことができないため、開鼻声や鼻雑音などの構音障害が生ずる。本研究では鼻咽腔閉鎖不全/構音障害の定量的な評価方法の確立を目的に、『大規模な変形を伴う声道(流れ場)を対象とした流体構造音響連成解析モデルを構築』する。そのために、(1)声道を模擬した大規模変形を伴う流路モデルを製作し、流路変形と構音条件との相関を実験的に明らかにする、(2)実験データを基に流体構造音響連成解析モデルを構築する。		
仮定確率密度関数法における機械学習を用いた平均反応速度高速計算手法の確立	◇ 名田 譲 徳島大学大学院社会産業理工学研究部(理工学域) 准教授	100
本研究では、燃焼現象のコンピューター・シミュレーションで用いられる仮定確率密度関数法の高速化を行う。平均反応速度の計算結果をディープ・ニューラル・ネットワーク(DNN)に学習させ、学習済みDNNを用いて燃焼現象のシミュレーションを行う。この結果、最も計算負荷の高い平均反応速度の多重積分を回避でき、高速化が実現する。機械学習の際に問題となる教師データの作成方法について検討を行い、反応前後での原子質量を保存できる学習方法を提案する。		
熱交換器・冷却機器の飛躍的な性能向上を目的とし、稲穂・麦穂の流れに見られる特徴的な乱れの渦構造を利用した熱流動制御手法の確立を行う。	◇ 桑田 祐丞 大阪公立大学工学研究科 准教授	100
本研究は、熱交換器・冷却機器の飛躍的な性能向上を目的とし、稲穂・麦穂の流れに見られる特徴的な乱れの渦構造を応用した熱流動のコントロール手法を開発する。稲穂・麦穂の表層には、ケルビン・ヘルムホルツ不安定波によって生じる比較的大きなスケールの吸い込み・吹き出し運動が生じる。このような運動は、流動抵抗の増加を抑えつつ、熱伝達率を増加させることが期待される。本研究では、このような流体運動を、熱交換器・冷却機器の伝熱面に誘起する方法を検討する。		
脳脊髄液漏出症の原因ー脊髄硬膜の微視的損傷を考慮した破壊メカニズムの解明	田村 篤敬 鳥取大学工学部 教授	100
むち打ち損傷の一因とされる脳脊髄液漏出症には脊髄硬膜の物理的破壊に関わるものと予想されるが、力学強度の高い硬膜が容易に損傷することは想像しにくい。本研究では自作した静的単軸引張試験装置を変位制御できるようニアモーターで自動化するとともに独自に確立した偏光観察手法と組み合わせ、硬膜が破断に至るまでのコラーゲン線維配向ならびに線維と組織ひずみの変化を計測する。これによって脊髄硬膜が破断する際には微視的に線維ひずみが急増し、特異的に脆弱な箇所が現れているのかどうかを明らかにする。		
力センサを印刷可能な3Dプリンタのための光ファイバーセンサ射出ノズルの開発	◇ 西村 斉寛 金沢大学理工研究域 助教	100
本研究は力センサを「一気に」印刷可能な3Dプリンタの実現を目的とする。樹脂材料と光ファイバー式ひずみゲージをそれぞれ射出可能な2つのノズルを搭載した熱溶融式3Dプリンタを開発する。一方のノズルで力センサのセンサボディを印刷し、もう一方のノズルでひずみゲージをセンサボディ上に射出・積層することで力センサを3D印刷のみで実現する技術の構築を行う。本申請では最初のマイルストーンとして、光ファイバーセンサをセンサボディ上に積層可能な射出ノズルの実現を目指す。		
塗装膜厚のインライン非接触測定技術の開発	◇ 大坪 樹 長崎大学大学院工学研究科 助教	100
大気汚染の原因物質である揮発性有機化合物の排出量の約4割が塗装に由来するものであり、塗料の使用量削減は大気汚染対策として大きな意義を持つ。塗装膜厚を均一にすることは難しく、膜厚測定による検査が必要である。しかし、非破壊かつインラインで膜厚測定できる装置がないため必要以上の厚さに塗装することで不良を回避している。そこで、本研究では、非接触かつインラインに対応した膜厚測定機を開発し、塗料の使用量の最適化、塗料使用量の削減すなわち揮発性有機化合物の排出量を削減に貢献する。		
<b>【電子・情報】</b>		
風力発電システム推進のための耐雷システムの開発	◇ 箕田 充志 松江工業高等専門学校 電気情報工学科 教授	100
温室効果ガス排出実質ゼロを目指した再生可能エネルギー普及のため、大型風車の導入が各地で行われつつある。しかしながら、風力発電システムの落雷による破損が問題となっている。様々な手法は検討されているが、未だ落雷に対する効果的な対策は施されていない。風車ブレードが破損すると長期の運転停止とともに交換作業のため大きな経費が必要となる。本研究では、落雷時による風車ブレードに関連した破壊現象を解明し、風車に対する効果的な避雷対策を提案することで、大型風車の落雷被害の低減を図る。		
合成開口レーダを搭載したドローンリモートセンシングの研究開発	泉 佑太 室蘭工業大学大学院工学研究科 助教	100
近年、ドローンリモートセンシングは産業界において様々な場面で利用されつつある。本研究ではマイクロ波の送受信によりターゲットの情報を得る合成開口レーダを搭載したドローンに搭載した、ドローン搭載型合成開口レーダを開発する。市販のオートクルーズ用レーダモジュールとRaspberry Piを組み合わせることによりシステムを構築し、開発コスト・時間の大幅な削減を目指す。これにより、社会インフラ点検、圃場観測、積雪深推定などの広域かつ準リアルタイムの観測を実現し、関連社会課題の解決を目指す。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
光非線形効果を用いた光子統計制御によるオンデマンド単一光子・もつれ光子発生デバイスの研究	後藤 秀樹 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授	100
世界中で量子情報や量子インターネットの研究が活発である。このインターネットの構築には、量子的性質を持った光源が必須である。この光源は、単一光子および、もつれ光子源とよばれるが、限定的な実用化に留まっている。特に応用上重要な、光子発生のタイミングを制御可能な光源(オンデマンド光源)は実用化の道筋も明らかではない。本研究では、各種の光子の性質を制御し、オンデマンド単一光子源、および、もつれ光子源を実現し、量子情報や関連する複数の研究発展と新しい社会インフラ実現に貢献する。		
脳磁界バイアス方式による多チャンネル非侵襲ブレインマシンインタフェースの開発	樋脇 治 広島市立大学 大学院情報科学研究科 教授	100
本申請研究では、頭皮上に置いたコイルにより発生させ頭部に透過させた磁界を脳にバイアスし、脳活動に伴い変動する磁界を磁気センサで計測する方式の非侵襲的脳機能計測技術を用いて、頭部全域に渡って多チャンネル計測を可能にする脳機能ダイナミクス計測システムを開発する。また、脳における情報処理ダイナミクスを時間的空間的に詳細に3次元表示するシステムを開発する。非侵襲でウェアラブルな高精度ブレインマシンインタフェースを開発する。		
カラー・蛍光画像の入力と深層学習による安価・小型で高精度な「種子用大豆」選別機の開発 ◇	斎藤 嘉人 新潟大学自然科学系(農学部) 助教	S 150
本研究では、一農家が導入可能な安価で高精度な種子用大豆選別機を目指し、表面の微細な変化を検知できる蛍光画像に深層学習を組み合わせた、判別精度95%以上かつ費用30万円以内の種子用大豆選別機の開発を目的とする。 1)大豆の正常粒・欠陥粒の蛍光画像パターンの解析, 2)励起波長の選択と解析アルゴリズムの構築, 3)選択した波長と解析アルゴリズムに基づくマルチバンド蛍光イメージング装置の構築と大豆選別機の試作を行い、欠陥粒判別精度95%を満たす種子用大豆選別機を開発する。		
III族窒化物半導体フォトニック結晶による発光再結合抑制型光触媒の創出 ◇	田尻 武義 電気通信大学 大学院情報理工学研究科 助教	100
化学資源の高効率生産技術につながる新たな光触媒技術として、フォトニック結晶を活用した光触媒の開発を目指す。屈折率の周期構造体であるフォトニック結晶では、光の伝搬が禁止される周波数帯である光バンドギャップが、電子正孔対の発光再結合を抑制するため、電子と正孔の両方の化学反応過程を促進することが期待される。本研究では透明半導体の一種であるIII族元素と窒素の化合物半導体を材料としたフォトニック結晶を光触媒とする新たな光化学的資源生成技術の開発を行う。		
<b>【化学系材料】</b>		
機能性エルボー型ナノカーボン材料の創製	橋川 祥史 京都大学化学研究所 助教	100
近年、新規3次元構造をもつナノカーボン材料としてベント型カーボンナノチューブ(bCNT)が着目されているが、明確な合成手法が確立されておらず研究展開が阻まれている状況にある。そこで申請者は、bCNTの鍵骨格となるエルボー型のジョイント構造に着目した。本研究課題では、高ひずみ分子であるフラーレンからトップダウン法によるナノジョイント構造の効率的合成法を提案し、その構造修飾により既存のカーボンナノチューブ(CNT)には見られない特異な物性探索に挑む。		
イオン結合性ナノシートのヘテロ集積化による機能性材料の開発	樽谷 直紀 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 助教	100
単層の金属水酸化物塩は2次元物質の一種であり、強いイオン結合性に基づいた高いイオン伝導度や表面分極による優れた触媒機能など共有結合性の2次元物質とは異なる特徴がある。異種の金属水酸化物塩が集積したヘテロ界面では、これら機能の協奏による新奇な物性発現が期待できる。本研究ではシングルnmスケールの微小な金属水酸化物塩ナノシートを合成し、ナノシートの面内方向と面外方向それぞれに集積化した際のヘテロ界面形態の違いが機能の変調や協奏に及ぼす影響を明らかにする。		
共役ジエンポリマーの強化と再利用を可能にする官能基化手法の開発 ◇	田中 亮 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 准教授	100
資源循環型社会の実現が強く求められている現代において、廃ゴム材料を回収し、繰り返し同じ用途に用いることで、石油や植生などの天然炭素資源の保護に貢献することは、ゴム産業において重要な課題である。本研究では、共役ジエンポリマーの側鎖に可逆的な架橋に利用できる官能基を導入し、熱的な処理のみで繰り返し再利用可能なゴム材料を開発する。また、官能基の導入位置の制御や、一部の官能基を変換することで、破断強度や破断伸びなどの物性の改善も目指す。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
量子ドット蛍光体を用いたナノコンポジット膜の作製と蛍光型太陽光集光器への応用 ◇	磯 由樹 慶應義塾大学理工学部 専任講師	100
集光型太陽電池は小さな太陽電池面積に比して大きな発電量を得る重要な技術である。そのひとつの蛍光体を用いる技術である蛍光型太陽光集光器(LSC)が、近年量子ドット蛍光体の発展に伴い注目されている。本研究ではLSC応用のために紫外光を吸収して高効率で黄色に発光するコア/シェル型CuGaS <sub>2</sub> /ZnS量子ドット蛍光体を樹脂に分散させてナノコンポジット膜を作製する。この蛍光膜と市販の太陽電池を取り付けたLSCを組み上げて評価し、膜の作製条件を検討しつつ発電能力に与える影響の最適化を目指す。		
室内新規エネルギー源の創出を目指した窒化ジルコニウムナノ粒子の光熱変換特性:ボールミリングと数値解析による発熱挙動の解明 ◇	坂本 全教 新居浜工業高等専門学校 環境材料工学科 助教	100
光発熱ナノ材料は光エネルギーを吸収し、熱に変換する事ができる。室内の可視光エネルギーをこれに活用することができれば、持続可能な社会の実現に貢献する。窒化ジルコニウム(ZrN)はその安定性や可視光吸収性で有望ながら、発熱メカニズムについて未解明な点が多い。本研究ではボールミリング法で窒化ジルコニウム(ZrN)をサイズ・結晶性を制御しながら調整した。同時に考案した数値解析法を用いる事でその発熱依存性および挙動について詳細に明らかにする。		
可溶性と包接力を兼ね備えた2次元多孔質材料の創成 ◇	林 宏暢 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 助教	100
ゼオライトなどの無機材料や、近年盛んに研究されている金属-有機構造体・共有結合性有機構造体などの多孔質材料は、ガス吸着・水質浄化・脱臭など興味深い特徴を有するが、溶媒には溶けない。本研究は、溶液プロセスで取扱い可能な「可溶性」と、単層状態でも効率よくゲストを取り込む強い「包接力」を兼ね備えた溶ける2次元多孔質材料(可溶性ポーラスナノシート)を開発し、所望のゲスト(有機・無機・生体材料)を溶液塗布を用いて一度に精密配列・集積できる技術確立を目指す。		
超分子相互作用の制御を介して分解性を向上させたプラスチックに代替可能なゲル材料の開発 ◇	LEE JI HA 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 助教	100
申請者はこれまでにネットワーク構造の形成が可能なカリックス[4]アレーンを用い、外部刺激を付与することで機械的特性を飛躍的に向上させたゲル素材の開発を行ってきた。その技術を元に、プラスチックに代替可能な機械的特性(引張強度:40MPa以上、破断伸び:0.7%以上、弾性力:3x10 <sup>6</sup> Pa以上)と分解性を有するゲル素材の開発を遂行する。手法として、最小限の強固な共有結合を用いてゲル構造を誘導し、分解が容易な非共有結合を外部刺激により切断し分解する。		
熱電特性を志向した複合機能型分子性結晶の設計と開発 ◇	角屋 智史 甲南大学理工学部 助教	100
近年、有機材料の熱電変換性能について急速に研究が進んでいる。これまでに申請者は、高伝導性と比較的高い熱起電力を併せ持つ複合機能型分子性導体の開発に成功している。本研究ではベンゾチオフェン骨格に基づく分子性導体を新規に開発し、その構造解析と輸送特性を中心に物性測定まで行う。特に分子がもつカルコゲン元素の数と位置による格子振動・フォノン制御を検討して、優れた熱電材料の実現と新奇熱電変換材料の設計指針の確立を目指したい。		
CO <sub>2</sub> の電解還元によるシュウ酸イオン生成のためのFe系電極触媒のサイバー空間における探索 ◇	高山 大鑑 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 准教授	100
CO <sub>2</sub> の電解還元によって得られるシュウ酸イオンは、樹脂原料であるエチレンウレアの合成の原料になり得る。この合成経路は、CO <sub>2</sub> の排出量削減と有価物化を両立できる「カーボンマイナス技術」であり、炭素資源に乏しい日本国にとって重要な工業基幹物質の合成法になり得る。本研究では、無機化合物データベースに収録された3600件のFe系化合物の電子状態を全自動で解析するPythonコードを作成し、本電解還元にも有効な新規Fe系電極触媒を見つけ出す。		
極性構造の精密制御による分子の自発配向誘起とデバイス応用	田中 正樹 東京農工大学大学院工学研究院 助教	S 150
有機電子デバイスに用いられる非晶質有機薄膜の内部では、分子が配向することで薄膜の光・電子機能を発現する。特に、分子の永久双極子が膜厚方向に向きを揃えて配向することで、薄膜レベルの分極を発生する現象が報告されている。本研究ではこれまで意図的な設計が困難であった高配向性の極性分子を、分子の極性構造の精密制御により開発する。さらに、この強分極膜を電子デバイスや環境発電デバイスに応用し、デバイス高性能化を実現する。		



研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<b>【物理系材料】</b>		
空間反転対称性の破れた有機・無機ハイブリッドペロブスカイト系におけるエキシトン由来のシフト電流生成	谷口 耕治 東京工業大学理学院 教授	100
光から電気へのエネルギー変換を行う光起電力効果は、太陽電池などに利用される、現代社会に欠かすことのできない応用物性である。本研究では、キラリティを用いて空間反転対称性の破れを導入した有機・無機ハイブリッド化合物半導体を新規に開発し、通常は電流を運ばない電氣的に中性なエキシトンに着目することで、従来の光起電力効果とは原理的に異なる、波動関数の幾何学的位相に基づいた“シフト電流”機構と呼ばれる新奇メカニズムによる高速・低エネルギー散逸な光電流生成の実現を目指す。		
Fe <sub>3</sub> O <sub>4</sub> 表面への吸着・光誘起脱離を用いた原子スピン制御	浅川 寛太 東京農工大学工学研究院 助教	100
強磁性体表面では電子が強くスピン偏極しており、そこに吸着した気体原子もスピン偏極すると予想される。そこで、本研究では強磁性体Fe <sub>3</sub> O <sub>4</sub> の表面に吸着・脱離したアルカリ金属原子Rbのスピン状態を調べることによりこの予想を実証する。本研究の成功により、磁性体表面への吸着・脱離を用いた新たなスピン偏極原子生成手法の開発につながるほか、表面一吸着子間のスピン角運動量移行を利用するスピントロニクスや量子情報処理技術などの次世代技術の開発にも役立つと期待される。		
巨視的量子性の観測に向けた低散逸懸架軟磁性球の作製と実証	不破 麻里亜 学習院大学理学部 助教	S 150
本研究では機械振動子として軟磁性体を使い、その物性を活かして重心運動を量子的に計測・制御することで、量子マテリアルメカニクスの基盤創出を目指す。具体的には、機械振動子としてイットリウム鉄ガーネット(YIG)という軟磁性体球を用い、スピン波という新たな内部自由度を加えることで、これまで困難であった質量mg、サイズmmを超える物体の量子性観測を目指す。本研究期間では、当研究室の高Q値鏡振り子の作製技術を応用し、YIGを用いた高Q値振り子を実現する。		
量子ドット集積素子における高精度スピン測定法の開発	木山 治樹 九州大学 大学院システム情報科学研究院 准教授	100
量子コンピュータのハードウェア開発において、量子ビットの集積化は重要課題の一つである。本研究では半導体量子ドット中の電子スピン量子ビットに着目し、量子ドット集積素子に適用可能な、高速・高精度のスピン測定法を開発する。小規模の集積量子ドット試料を用いて原理実証および測定精度の評価を行い、大規模集積素子への適用に向けた知見を得る。また、集積化に伴う温度上昇を想定し、高温でのスピン測定精度向上にも取り組む。		
ガルバニック水中結晶光合成による機能性3次元ヘテロナノ構造の創製	◇ 張 麗華 北海道大学大学院工学研究院 准教授	100
申請者グループは常温、常圧、中性水中で、金属表面への照射により、水素発生を伴いながら金属酸化物のナノ結晶が成長することを見出し、水中結晶光合成と命名した。現在、この方法を利用した様々な金属酸化物のナノ粒子、ナノ表面構造を水と光のみで創る研究開発を進めてきているが、最近、異種金属同士を直接接触させるガルバニック効果を利用することで、ヘテロナノ構造体が作製できることが判明した。本研究では、ガルバニック効果を伴う光誘起の水中結晶光合成(G-SPSC)の光化学反応の本質を解明し、それに基づく3次元ヘテロナノ構造体創製を行う。		
Sb系塗布型複合アニオン材料の革新的波長センシング機能の発展研究と光電変換性能向上	西久保 綾佑 大阪大学大学院工学研究科 助教	100
Sbカルコハライド材料(SbSI)を用いた光電変換素子において申請者が独自発見した新奇波長応答現象(WDPE)の化学的メカニズム解明と制御手法の確立、溶媒や添加剤、表面処理剤の探索による太陽電池性能向上に取り組む。従来困難であった、単一素子での波長・光強度センシングを実現する手段として期待される。これまで未解明であったWDPEの化学的機構を明らかにし、制御する手法を探索する。また添加剤による結晶成長制御、表面パッシベーションによる欠陥の不活性化により、発電性能向上を目指す。		
塗布電極シートを活用した全固体蓄電デバイス用電極複合体の創製	◇ 引間 和浩 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 助教	100
全固体リチウムイオン二次電池は、車載用途等に向けて高エネルギー密度化が求められており、負極の半分以下の容量である正極の高容量化が求められている。申請者は、高容量Li <sub>2</sub> MnO <sub>3</sub> 正極が固体電解質との界面で電気化学活性を示すことを見出した。しかし、Liイオン・電子伝導性に乏しいLi <sub>2</sub> MnO <sub>3</sub> 正極を全固体電池に適用するためには、硫化物系固体電解質、カーボン系導電助剤との複合化が必要である。そこで本研究では、硫化物系固体電解質の液相合成と塗布電極シートを組み合わせた複合化手法を開発し、全固体電池での高容量の発現を目的とする。		
アモルファス・ナノ結晶コンポジット材料の誘電特性と焼結フリーな合成手法の開拓	◇ 近藤 真矢 岡山大学学術研究院自然科学学域 助教	100
近年のIoT分野の発展により、MLCC(積層セラミックキャパシタ)の需要が急増しており、従来のセラミック粒子の微細化によるデバイスの小型化は限界を迎えつつある。そこで、本研究では用いる基板に制限がなく、素子サイズに依存しない誘電体材料の開発を目指し、非晶質と結晶のコンポジット構造に着目した。はじめにパルスレーザー堆積法を用いて薄膜を作製し、次いで新奇合成手法を開発し、バルクセラミックスで非晶質と結晶の界面を利用した巨大誘電率の発現及び、その分極応答メカニズムの解明を目指す。		
エネルギーハーベスティングのための磁気構造の制御	ヒルシュベルガー マクシミリアン 東京大学大学院工学系研究科 准教授	100
熱電効果によるエネルギーハーベスティングとは、多くの産業プロセスや家電製品で失われる廃熱を電気エネルギーに変換する技術のことであり、省エネルギー社会の実現に大きく寄与すると期待されています。申請者は、非共線的な磁気構造を持つ磁性材料を用いて、エネルギーハーベスティング技術に関する新しい基礎学理の構築を目指している。本課題で提案する基礎研究では、低温で高効率熱電変換を示す磁性材料の探索を行う。		
合計	31件	3,300

## 第38回(2022年度)マツダ研究助成奨励賞一覧 — 科学技術振興関係 —

マツダ研究助成選考委員奨励賞は、マツダ財団設立30周年を記念して2014年度より新設されました。科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした4件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。

(註) 研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	大規模な変形を伴う声道の流体構造音響連成解析	山本 高久 岐阜工業高等専門学校 機械工学科 准教授
選考理由	<p>人体の口腔内声道で発生する音の解析を行うため、声帯や鼻腔の大変形を伴う流れ場での、流体-構造-音響連成解析モデルを構築する研究である。従来は流路の大きな変形を考慮しておらず、この点から先進性が高い。構築したモデルは、小児の言語障害となる鼻咽腔(びいんくう)閉鎖不全の重症度の評価や治療方針検討への活用を想定しており、必要性も高い。また、流体-構造-音響連成解析をOpenFOAMベースでモデル構築する事により、風切り音や振動の車内音響への影響を高精度で予測できるようになる等、自動車開発への応用も期待できる。</p>	
電子・情報	カラー・蛍光画像の入力と深層学習による安価・小型で高精度な「種子用大豆」選別機の開発	斎藤 嘉人 新潟大学 自然科学系(農学部) 助教
選考理由	<p>本研究は、安価で高精度な種子用大豆選別機を目指したもので、表面の微細な変化を検知できる蛍光画像に深層学習を組み合わせた、判別精度95%以上かつ費用30万円以内の種子用大豆選別機の開発を目的としたものである。技術的には、1) 大豆の正常粒・欠陥粒の蛍光画像パターンの解析、2) 励起波長の選択と解析アルゴリズムの構築、3) 選択した波長と解析アルゴリズムに基づくマルチバンド蛍光イメージング装置の構築と大豆選別機の試作を行うもので、実用性と経済性の観点からも意義高く、早期に技術確立されることが期待される。</p>	
化学系材料	極性構造の精密制御による分子の自発配向誘起とデバイス応用	田中 正樹 東京農工大学 大学院工学研究院 助教
選考理由	<p>本研究は、有機電子デバイスに用いられる非晶質有機薄膜において、これまで意図的な設計が困難であった高配向性の極性分子を分子の極性構造の精密制御により開発することを目指している。強分極膜を官能基の表面張力に着目した新たな分子設計により実現しようとしている点は独創的であり、電子デバイスや環境発電デバイスの高性能化への貢献が大いに期待できる。</p>	
物理系材料	巨視的量子性の観測に向けた低散逸懸架軟磁性球の作製と実証	不破 麻里亜 学習院大学 理学部 助教
選考理由	<p>本研究は、機械振動子として軟磁性体を使い、その物性を活かして重心運動を量子的に計測・制御することで、量子マテリアルメカニクスの基盤創出を目指したものである。これまで困難であった質量mg、サイズmmを超える物体の量子性観測が可能となり、省資源な地震予測などの工学分野へと普及する可能性がある。この独創的で先進的に富む秀逸な研究に対し奨励賞を贈呈する。</p>	

## I - 2. 事業助成

### 1. 募集・応募・選出状況

#### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

##### (a) 助成趣旨

学会・研究機関等に属する研究者及び非営利団体が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」(\*)に関する事業・研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

(\*)オンライン行事、リモート体験を含みます。

科学館および、高校で実施する科学体験活動/科学クラブ活動を含みます。

##### (b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校、高等学校、非営利団体に所属し、申請事業の開催責任者または出版物の主たる著者によって、2022年6月から2023年5月に実施される

- ・「科学体験」事業の開催
- ・学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

##### (c) 募集方法

公募

##### (d) 対象地域

中国地方

##### (e) 助成金総額

233万円

##### (f) 助成件数

20件程度

##### (g) 1件当たり助成金額

10～20万円

##### (h) 助成期間

2022年6月から2023年5月

##### (i) 募集期間

2022年4月1日～5月9日

#### (2) 応募状況

本年度は、16件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

##### (a) 地域別

・鳥取県	1件	・広島県	6件
・島根県	5件	・山口県	2件
・岡山県	2件		

##### (b) 分野別

(1) 体験事業の開催	15件
(2) 研究会等の開催	0件
(3) 成果出版物の発刊・教材等の試作	0件
(4) その他	1件

#### (3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会（5月17日）において慎重に審査された結果、助成候補として13件が選出され、5月19日に正式決定されました。

## 2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

### (応募件数および助成件数)

	本年度(第38回) 2022年度	第37回 2021年度	第36回 2020年度
応募件数 (件)	16	16	16
助成件数 (件)	13	13	10
助成比率 (%)	81	81	63
助成金総額 (万円)	233	222	178

### (地域別状況)

地 域	2022年度		2021年度		2020年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
鳥 取 県 (件)	1	1	1	1	0	0
島 根 県 (件)	5	2	4	2	8	3
岡 山 県 (件)	2	2	1	1	0	0
広 島 県 (件)	6	6	6	6	6	5
山 口 県 (件)	2	2	4	3	2	2
合 計 (件)	16	13	16	13	16	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

### (分野別状況)

分 野	2022年度		2021年度		2020年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
(1) 体験事業の開催 (件)	15	12	14	11	14	8
(2) 研究会等の開催 (件)	0	0	0	0	0	0
(3) 成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	0	0	0	0	2	2
(4) その他 (件)	1	1	2	2	0	0
合 計 (件)	16	13	16	13	16	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

3. 第38回（2022年度）マツダ事業助成一覧 —科学技術振興関係—

事業名 ([ ]内は小・中・高生の参加者数)	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
「探究活動」と「部活動」を融合させることで、スポーツを科学的に分析する力を身につける。～文武”一”道の実現を目指して～	広島市	西 武宏 広島県立祇園北高等学校 教諭	2022/06/01 ~ 2023/05/31	20
公開講座「怪盗から宝を守ろう」-センサや無線通信を使って実験・体験プログラミング-	周南市	河村 麻子 徳山工業高等専門学校 技術専門職員	2022/08/15 ~ 2023/03/31	20
バーチャルリアリティの世界を楽しもう！	岡山市	佐々木 弘記 中国学園大学 教授	2022/06/01 ~ 2023/05/31	20
ポストコロナに向けた「おもしろ科学教室」の実施～科学体験の提供と指導者育成～	下関市、山口市、萩市	岡田 秀希 山口大学 特命職員	2022/06/01 ~ 2023/03/31	15
果物の熟度について考えてみよう -ブドウの物理量計測実験-(2022年度岡山大学公開講座)	岡山市	難波 和彦 岡山大学 准教授	2022/08/23 ~ 2022/08/23	20
第7回 広島ジュニアサイエンスフェア(通称 じゃすふあ)	広島市	くや みつお 広島干潟生物研究会 事務局長	2023/03/21 ~ 2023/03/21	20
プログラミング体験会の実施	広島市	古本 大生 任意団体 瀬戸内サラマンダー 会長	2022/06/01 ~ 2023/05/31	20
探究的な体育と理科の「科学体験」を通じた学び2022	広島県内	岩田 昌太郎 広島大学 准教授	2022/06/01 ~ 2023/05/15	20
GPSを使って、スポーツ科学の楽しさと奥深さを体験しよう！！	松江市	一箭 フェルナンド ヒロシ 松江工業高等専門学校 准教授	2022/08/01 ~ 2023/03/31	15
ミニレスキューロボットを作ろう！	松江市	本間 寛己 松江工業高等専門学校 教授	2022/07/01 ~ 2022/12/31	20
太陽光発電×プログラミング×花卉観察の複合体験を通して効果的に学ぶSDGs	米子、鳥取南部町	川戸 聡也 米子工業高等専門学校 助教	2022/06/01 ~ 2023/03/31	18
高校生による小学生へのプログラミング教室	尾道市	杉浦 翔 学校法人尾道学園 尾道高等学校 教諭	2022/06/01 ~ 2023/03/31	17
海ホテル観察会	呉市蒲刈町大浦	鬼塚 一夢 呉市蒲刈B&G海洋センター インストラクター	2022/08/13 ~ 2022/08/14	7
合 計		13件		233万円

## I-3. 科学わくわくプロジェクト

### (1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学等が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶこととわくわくする体験、正解のない問題に取組みブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

### (2) 連携先

科学わくわくプロジェクト実行委員会

委員長：広島大学 林 武広 名誉教授（元比治山大学副学長・教授）

### (3) 主要事業

#### ① サイエンスレクチャー

（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

今年度は3学期に3つの中学校にて4回、対面方式で実施。

テーマは「宇宙の構成」「広島花崗岩について」「ブラックホールとガンマ線バースト」「キャリア形成—理系への期待」の4つ。

#### ② ジュニア科学塾

（理科好きの中高生が高度な科学内容を学ぶことを通して先端的科学への関心を高め、学ぶ意欲を育む集中講義）

本年度のテーマは「交通の歴史と未来」

2023年3月に広島大学東千田校舎および広島電鉄本社にて、ひろでん100年での役割、最新式電車のしくみについて講義、および広島駅までの体験乗車を実施。

#### ③ 小学校理科ひろば

（小中学校理科授業充実のための教員支援として、小学校高学年理科出前示範授業及び現職教員研修）

30校で4年生、5年生及び6年生理科を特別授業を1校はオンライン、その他は対面で実施。

テーマは、4年生「夏の月と星」「冬の月と星」、5年生「流水の働きと土石流、津波」「天気の変化」「自然災害と防災」、6年生「月と太陽」「土地のつくりと地層」など多彩な授業を実施。

### (4) 実施額

100万円

## Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

### Ⅱ-1. 研究助成

#### 1. 募集・応募・選出状況

##### (1) 募集

次の内容で募集を行いました。

##### (a) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る教育現場及び市民活動の活性化に役立つ汎用性の高い研究（基礎的研究を含む）を対象とします。

対象研究分野：①ボランティア育成 ②若者の居場所づくり ③地域連帯、コミュニティづくり  
④自然とのふれあい ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり

(b) 募集地域	全国
(c) 助成期間	1年または2年
(d) 助成金総額	400万円（1件の上限100万円）
(e) 助成件数	5～6件
(f) 募集期間	2022年4月15日～6月15日

##### (2) 応募状況

本年度は、29件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	16件(55%)
	・近畿以西	13件(45%)
(b) 分野別		
	① ボランティア育成	1件(3%)
	② 若者の居場所づくり	10件(34%)
	③ 地域連帯、コミュニティづくり	12件(41%)
	④ 自然とのふれあい	2件(7%)
	⑤ 国際交流・協力	1件(3%)
	⑥ 科学体験・ものづくり	3件(10%)

##### (3) 助成対象の選出

選考委員会は久々の対面を計画していましたが、直前でのコロナ急増を受けて、今年度も二次審査(8月3日)をオンラインで行いました。助成候補として5件を選出し、理事会において正式に承認決定されました。

##### (4) 助成金の贈呈

2022年11月に研究代表者に助成金を贈りました。

#### 2. フォローアップ

##### (1) オンライン交流会

今年度は、10月に新規採択者全員でオンライン交流会を行い、11月には久々の贈呈訪問を行いました。

##### (2) 青少年育成交流会

コロナが落ち着き始め規制緩和が進みましましたので、3年ぶりに対面での成果報告会を実施しました。選考委員の明石先生の基調講演を皮切りに、ポスターセッション(研究者・市民団体)、パネルディスカッションを実施し、研究者、市民活動団体、選考委員等総勢68名が出席しました。今回は、これまでコロナで延期されていた方々が一斉に修了されたので、発表者が多く研究者にも簡単な紹介の後にポスターセッションで発表していただきました。今回修了の研究者の半分は、オンラインサロンでも発表していただいていたので、市民活動団体との話が弾んでいました。

## 2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第38回) 2022年度	第37回 2021年度	第36回 2020年度
応募件数 (件)	29	20	32
助成件数 (件)	5	4	5
助成比率 (%)	17%	20%	16%
助成金総額 (万円)	400	320	400

(地域別状況)

地域	2022年度		2021年度		2020年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東 (件)	16	1	8	2	14	1
近畿 (件)	4	1	3	2	6	2
中国・四国 (件)	9	3	6	0	7	1
九州・沖縄 (件)	0	0	3	0	5	1
合計 (件)	29	5	20	4	32	5

(左側数字:応募件数, 右側数字:助成件数)

(分野別状況)

分野	2022年度		2021年度		2020年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
ボランティア育成 (件)	1	0	2	0	2	1
若者(青少年)の居場所づくり (件)	10	3	2	1	9	3
地域連帯、コミュニティづくり (件)	12	1	6	2	11	1
自然とのふれあい (件)	2	1	3	1	4	0
国際交流・協力 (件)	1	0	5	0	4	0
科学体験・ものづくり (件)	3	0	2	0	2	0
合計 (件)	29	5	20	4	32	5

(左側数字:応募件数、右側数字:助成件数、分野は審査時)



### 3. 第38回(2022年度) マツダ研究助成一覧 – 青少年健全育成関係 –

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
ヤングケアラーが生まれるメカニズムと支援策に関する研究	宮本 恭子 島根大学法文学部教授	80
<p>家事や家族の介護を日常的に行っている子どもを「ヤングケアラー」という。近年、このヤングケアラーへの関心が高まっている。ヤングケアラー対策の中で、発生の予防を考えることは、最も重要かつ意義深いものだが、家庭内のケア状況は見えにくく、子どもからSOSを出すことも難しいため、予防的アプローチは決して容易ではない。そこで本研究では、子どもが「潜在的な介護力」に組み込まれて、孤立することのないよう、ヤングケアラーの発生要因・機序を解明し、予防的対策を検討することを目標とする。</p>		
対話からうまれる若者たちの居場所と自分らしい将来のあり方	山本 真実 浜松医科大学医学部准教授	80
<p>Society5.0時代の到来、感染症の世界的流行など、社会の在り方や人々の価値が急激に変化する時代となった。若者たちは、多様な価値観を尊重し、自分らしい将来を見つけていくが、そのためには同世代の人々と集い、話し合う居場所が必要となる。本研究は、自主的・継続的に若者達が集い語り合う活動を取り上げ、若者たちが自らの力でつくる居場所の特性と、その居場所で彼らが見つめる自分らしい将来について、やりとりや関係性、相手への姿勢といった「対話」の視点から明らかにする。</p>		
豪雨災害時に外国籍住民を情報弱者にしないための市民参加型防災学習実践 ～LEGOを用いた対話活動と共助力向上に着目して～	小口 悠紀子 広島大学大学院人間社会科学部研究科准教授	80
<p>本研究では、平成30年7月豪雨で明らかになった外国籍住民の避難行動をもとに、従来の知識伝授型の防災教育の限界を指摘する。その解決策として「リスク・コミュニケーション」の創出を目指した市民参加型の防災学習の必要性を主張する。具体的には、LEGO®を用いて日本人と外国籍住民の親子がともに参加・交流できる実践を行い、対話や気づきを明らかにする。さらに、日本語教育や多文化共生のまちづくりという観点から、「共助力」の向上を目指した今後の防災学習のあるべき姿を提言する。</p>		
社会の「あるべき生き方」に沿えない若者のひきこもりと、アイデンティティの再構築による回復	日原 尚吾 松山大学経営学部准教授	80
<p>ひきこもりは、社会との接触を断ち、孤立する現象を指す。ひきこもりの若者は、社会が期待する「あるべき生き方」に沿うことができないために、社会で居場所を失い、自分らしい生き方を構築できない状態に陥っている。本研究は、「社会の中で何をして生きるのか」という自覚であるアイデンティティの観点から、ひきこもりの若者が、社会の「あるべき生き方」から逸脱してひきこもりに至る過程、その後、「あるべき生き方」とは別の形で主体性を発揮し、社会で認められる生き方を再び模索する過程を明らかにする。</p>		
ひとり親家庭を対象とした自然体験活動が参加者の自己肯定感および保護者の子育てレジリエンスに及ぼす影響	徳田 真彦 大阪体育大学体育学部講師	80
<p>本研究は、貧困を原因とする体験格差や教育格差の解決に向けたアプローチを行うため、一般社団法人日本アウトドアネットワークが実施している「ひとり親家庭支援事業」を取り上げ、ひとり親家庭を対象とした自然体験活動の効果を参加者および保護者の両面から明らかにする。また、事業運営者や参加家庭・不参加家庭の保護者へ支援事業に関する実態・ニーズ調査を行い、参加する障壁となる課題を明らかにするとともに、その解決策を検討する。</p>		
合 計	5件	400万円

## Ⅱ－２．市民活動支援

### １．募集・応募・選出状況

#### (1) 募集

- (a) 対象活動・分野 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動  
「ボランティア育成」「地域連帯、コミュニティづくり」「若者の居場所づくり」「自然とのふれあい」  
「国際交流・協力」「科学体験・ものづくり」
- (b) 募集地域 広島県、山口県
- (c) 支援期間 単年度支援 2022年4月1日～2023年3月31日の1年間
- (d) 支援金総額 800万円 (1件当り支援金額10万円～50万円)
- (e) 募集期間 2021年10月20日～2022年1月16日

#### (2) 応募状況

本年度は、56件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- (a) 地域別
- ・広島県（広島市を除く） 18件(32%)
  - ・広島市 22件(39%)
  - ・山口県 16件(29%)
- (b) 分野別
- ・ボランティア育成 2件(4%)
  - ・国際交流・協力 1件(2%)
  - ・自然とのふれあい 5件(9%)
  - ・科学体験・ものづくり 9件(16%)
  - ・若者の居場所づくり 8件(14%)
  - ・地域連帯、コミュニティづくり 31件(55%)

#### (3) 支援対象の選出

選考委員会（2022年2月24日開催）での審議の結果、支援候補として30件が選出され、2022年3月開催の理事会において正式に承認決定されました。

#### (4) 支援金の贈呈

広島県県内の20団体および山口県内の10団体に対して、支援金を贈りました。贈呈式は、コロナ禍のため昨年に続き2022年4月14日に広島・山口合同でオンラインでの開催を行いました。

## ２．フォローアップ

#### (1) オンライン交流会・活動見学

今年度も6月～8月に6回に分けて、少人数単位でのオンライン交流会を行いました。前年度から延期された12団体を含む42団体の内、35団体52名が参加され親しく意見を交わしました。今年度は活動を再開される団体が多く、見学にきてほしいとの依頼を受け9団体を訪問しました。

#### (2) マツダ財団サロン

昨年度より実施しているオンラインサロンを今年度も4回開催しました。今年度支援団体に限らず過去に支援した団体や、研究者も含め、テーマに関心がある人が毎回10名～20名集い意見交換しました。研究発表と活動発表の両方を組み合わせ、お互いに有意義なサロンとなっています。「乳幼児の母親支援」「学習支援」「オンライン居場所」「在留外国人支援と異文化交流」の4回を8月～12月に開催しました。

#### (3) 青少年育成交流会

今年度は38団体が終了されましたが、3団体は活動を断念され、1団体が延期されました。2023年2月23日に、研究助成と合同で3年ぶりの対面での成果報告会を開催し、盛り上がりました。

## 2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	本年度(第38回) 2022年度	第37回 2021年度	第36回 2020年度
応募件数 (件)	56	55	57
支援件数 (件)	30	29	30
支援比率 (%)	54%	53%	53%
支援金総額 (万円)	800	800	800

(地域別状況)

地域	2022年度		2021年度		2020年度	
	応募	支援	応募	支援	応募	支援
広島県 (件)	18	10	22	10	23	13
広島市 (件)	22	10	18	11	18	10
山口県 (件)	16	10	15	8	16	7
合計 (件)	56	30	55	29	57	30

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分野	2022年度		2021年度		2020年度	
	応募	支援	応募	支援	応募	支援
ボランティア育成 (件)	2	0	2	2	2	1
国際交流・協力 (件)	1	0	0	0	4	1
自然とのふれあい (件)	5	3	8	2	6	1
科学体験・ものづくり (件)	9	6	7	6	8	5
若者の居場所づくり (件)	8	4	6	2	14	11
地域連帯、コミュニティ (件)	31	17	32	17	23	11
合計 (件)	56	30	55	29	57	30

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

### 3. 第38回(2022年度) マツダ市民活動支援一覧 -青少年健全育成関係-

活 動 名	団 体 名	地 域	金 額 (万円)
人権紙芝居デジタル版の創作	おんぶのまちプロジェクト	安芸郡府中町	34
学育(自ら学んで周りが育む)プロジェクト	あいだす	呉市	35
道しるべの先へ ～つながる～あなたは独りじゃない	発達障害親の会 *PEACCH*	広島市安芸区	17
大学生と小学生の共同平和発信 ～ヒロシマの平和を 考える絵画コンクールから絵おと芝居～	Hiroshima Young Peace Builders	広島市安佐南 区	45
オリジナルマスキングテープとボード ～想像と創造のワークショップ～	HIROMARU PROJECT	広島市安佐北 区	38
ふかわ子ども食堂	ふかわ子ども食堂	広島市安佐北 区	17
ペーパークラフトロケット教室	ひろしまC a n D o (かんどう) プロジェクト	広島市佐伯区	26
昔遊びの伝承と指導	やはた昔遊びの会	広島市佐伯区	10
子どもの放課後学習支援	宿題やっつけ隊	広島市佐伯区	31
自分たちの手で地域の景色を変えていこう!	似島・通学路沿いの竹林を整備する会	広島市西区	30
妙聲寺 ほのぼの寺子屋 ～お寺本堂での小学生の学 習支援と居場所づくり～	妙聲寺 ほのぼの寺子屋	広島市西区	10
River Do! for Future ～広島水の都文化の次世代への継承～	RiverDo! 基町川辺コンソーシアム	広島市西区	25
ワカモノとつくるみんなの居場所	Cafe地球屋	三次市	30
里山・里川の宝リレー	里山の宝リレークラブ	三次市	24
ドローンで繋ぐ農家と子供たち	近畿大学工学部 教育情報システム研究室	東広島市	30
こども・若者と多世代の体験活動 ～空き倉庫リノベーション活動～	浦崎地区社会福祉協議会 UMEプロジェクト	尾道市	36
「福山のバラ」でお香開発	子どもが科学に親しむ場を創る会	福山市	25
ものづくりの基礎となる空間力を養う体験学習を地域 文化財から学ぶ活動	FLAMEWORK JAPAN	福山市	27
小中学生の自由な発想力を育む地域に根差した情報番 組制作ワークショップの実施	Project SMILE	福山市	43
高校生マイプロジェクトアワード広島県Summit	一般社団法人 まなびのみなど	豊田郡大崎上 島町	38
育って! 広がれ! 未来の地球 ミニソーラーカー工作教室	宇部市地球温暖化ネットワーク	宇部市	33
自転車危険マップづくりとルール啓発による交通安全 コミュニティの取り組み	うべ交通まちづくり市民会議	宇部市	13
絶滅危惧Ⅱ類「ヤマグチサンショウウオ」を教材とし た自然環境教育の実践	小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会	下関市	17
みかん山を活用したひきこもり自立支援	特定非営利活動法人 Nest	下関市	30
島田川流域と海を結ぶSDGsアクション	ひかりエコメイト	光市	20
森の豊かさを知る ～身近な森の木で学習机を作ろう～	特定非営利活動法人 もりのこえん	山口市	25
体験は学びのDIY ～地域資源の中で共に育み合う学び環境作り～	一般社団法人 Happy Education	山口市	34
しゅうなん鹿野こどもマルシェ	未来の鹿野人(おとな)計画	周南市	15
かつまよいち	勝間コミュニティ推進協議会	周南市	32
ほうふのれきしを学ぼう! 知ろう! なぜ? なに? ～ミュージアムforキッズ～	古文書を読む会	防府市	10
合 計	30件	800万円	〔 広島県 20件 571万円 山口県 10件 229万円 〕

## Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

### (1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、1998年度から実施しています。

### (2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

### (3) 開催場所・開催日等

#### ① 広島市三滝少年自然の家

- ・2022年8月17日～8月19日 2泊3日
- ・参加者：小学4～6年生 参加28名（応募総数204名）

「水」の不思議発見！感動体験 水に係る時下件や工作、自然体験を通して水の不思議について学ぶ。

#### ② 広島市青少年野外活動センター

- ・2022年8月19日～8月21日 2泊3日
- ・参加者：小学3～4年生 参加29名（応募総数127名）

水をテーマに実験・観察や施設見学を行い、水の姿や生き物、人との関わりについて学ぶ。

#### ※広島市似島臨海少年自然の家

2022年9月17日～9月19日に「海からの贈り物」をテーマに開催予定だったが、台風接近により中止。

- ・参加者：小学4～6年生 参加予定者35名（応募総数170名）

### (4) マツダ財団負担額

130万円

## Ⅱ-4. スタートラインプロジェクト

### (1) 内容

「スタートラインプロジェクト」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」（緊急避難場所）および「はばたけ荘」（自立援助ホーム）を開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実等を支援する事業を、2013年度から実施しています。

### (2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

### (3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行った。

#### ① 被虐待児等の成長を支援するプログラム

- ・実施概要：「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、自炊訓練、生活訓練、マナー講座、就職活動支援、高校生への学習支援、受験支援、修学旅行支援などを行った。
- ・対象者：今年度の「ピピオの家」の入居者 6名、「はばたけ荘」の入居者 4名

#### ② スタッフの能力開発を支援するプログラム

- 「第12回NPO法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」（全8講）の実開催
- ・参加者：7名が受講。

その他、以下の活動を支援した。

2022年9月17日 子どもシェルター全国ネットワーク会議への参加（オンライン出席）

2022年12月10日～11日 日本子ども虐待防止学会(JaSPCAN)ふくおか大会参加

全国自立援助ホーム協議会鳥取大会参加（オンライン出席）

専門家によるスタッフ3名へのカウンセリング

### (4) 実施額

本年度は繰越金にて対応しました。

## II-5. 若者×ツナグバ

### (1) 内容

「若者×ツナグバ」は、高齢化社会や格差社会が進む状況下で、青少年の最終ステージともいえるべき「社会人になる直前の若者」「社会に出て間がない若者」が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援することを目的として、若者が地域社会のために行う非営利の活動を支援します。

### (2) 募集内容

- ・対象地域：広島県・山口県
- ・対象団体：若者自身が企画し、社会貢献を行う団体。若者が5名以上の団体で、代表者も若者であること。  
若者の定義は、2022年4月1日時点で満18歳以上30歳未満の人。
- ・支援期間：単年度支援 2022年4月1日～2023年3月31日の1年間
- ・支援金額：30万円/団体（5団体）
- ・募集期間：2021年10月15日～2022年1月31日

### (3) 応募および審査

- ・6団体（広島2、山口4）より応募をいただきました。
- ・2022年3月12日にオンラインによるプレゼン審査を行い、当事業の趣旨に合致した5団体を選出決定しました。

### (4) 支援団体（社会人3団体、大学生2団体）

- |                 |       |                           |
|-----------------|-------|---------------------------|
| ① 輔衆（ふいごしゅう）    | 安芸太田町 | 「空き家を多世代交流の拠点に！棚田の魅力を発信！」 |
| ② 11=Jack(ジャック) | 周南市   | 「山口県の福祉・介護を盛り上げたい！」       |
| ③ 海岸清掃プロジェクト    | 東広島市  | 「メイド・オブ・ふるさと食育プロジェクト」     |
| ④ グローカル・アバンセ    | 宇部市   | 「「おとぎ話」で国際交流」             |
| ⑤ アミーゴやまぐち      | 山口市   | 「高校生、大学生たちの居場所づくり」        |

### (5) フォローアップ

#### ① 顔合わせ交流会（オンライン）

4月5日に、新メンバーと事務局による顔合わせ交流会を実施しました。

#### ② 定期交流会（オンライン）

その後、隔月で定期交流会を実施し、活動状況の共有や意見交換を行いました（6/3, 8/5, 10/7, 1/13）。  
毎回、各団体2名程度参加。

#### ③ 第1回若ツナフェスタ（対面）

10月23日に安芸太田町井仁の棚田で全団体が集結して、地元の人たちも含めたイベントをする開催しました。前年度コロナで中止したので、今回は初めての開催でした。オンラインで既に何度も会っていたので、直ぐに親しくなり盛り上がりました。

#### ④ 第2回若ツナサミット（オンライン）

12月18日（日）に今年度の各団体の成果報告会を兼ねた若者の意見交換会を実施しました。今回は外部からの参加がなく若ツナ参加5団体だけでしたが、意見交換会では、「仕事・学業 と 市民活動 のバランス どうしてる？」をテーマに議論が弾みました。

## Ⅱ－６．第４０回講演会

### (1) 内容

青少年健全育成事業の一環として毎年講演会を実施しています。本年度は講師にアーティスティックスイミング元日本代表ヘッドコーチの井村雅代氏を迎え、「人を育てる」と題して実開催いたしました。

講演会当日はスポーツに関心のある若い方も含め600名に来場いただきました。聴講者からは、「熱のこもったわかりやすい講演でエネルギーをもらった。」といったコメントを多数いただきました。また、「コーチとしての心構えができました。」「叱り方」についてもっと聞きたい。」といった声もありました。

講演内容については「普段の相手を見る。」「成長を信じて叱る。」「うまくいく方法を必ず教える。」といったお話しに大変感慨を受けたなど、好評な感想をいただきました。

- ① 講 師： 井村 雅代氏（アーティスティックスイミング 元日本代表ヘッドコーチ）
- ② 演 題： 人を育てる
- ③ 開催期間： 2023年2月7日(火)
- ④ 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- ⑤ 聴講者数： 600名



## II-7. 大学寄付講義の実施概要

マツダ財団の寄付講義は、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて、次世代を担う学生と共に考える「双方向」の講義を目指しています。その内「ボランティア」の講義は2000年度から一般社団法人教育ネットワーク中国のお力添えで、2年ごとに開講大学を替えながら「単位互換科目」として広く県内の大学生に受講していただいています。

### (1) 本講義の目標と特色

本講義は、集中講義とボランティア実習を組み合わせた構成としています。まず、集中講義でボランティア活動に必要な基本的知識や方法を学び、その後、実際にボランティア活動を実践することで、活きた知識・方法を身に付け、自ら感動を体験してもらいたいと考えています。青少年健全育成に関する専門家やボランティア団体による分かりやすい集中講義とボランティア実習を伴うユニークな内容となっています。

### (2) 講義の概要

#### 集中講義

日時 : 2022年5月21日(土)、28日(土)、9:00~16:10 (4コマ×2日間)

場所 : 広島市立大学

講師 : 大学教員2名、ボランティア団体4名、マツダ(株)1名、マツダ財団1名

### (3) ボランティア実習

各自でボランティア実習先を探し、夏休みなどを利用して実施

#### 実習の条件

- ・期間は6/1~8/31の間。
- ・実働30時間以上、あるいは2泊3日以上であること。
- ・小・中学生とのふれあいのあるボランティア活動。

今回は、大丈夫かと思っていましたが、再び夏場に増加したコロナの影響で、ボランティア実習先が中止となるケースがいくつか発生したため、後期1/31まで実習期間を延期し、前期、後期で単位が取得できるように対応。

### (4) レポート提出と単位認定

ボランティア実習終了時にレポートを提出し、「集中講義の出席」、「ボランティア活動への参画」、「レポート」の3点により評価し単位認定する。

単位認定17名

久しぶりの対面での授業でした。他の財団の事業はなかなか対面に移行できていない中、大学は学生の機会を無くさないように対面で行うとの方針を出されたので、世の中がwithコロナに動き出していることを感じました。やはり対面で行う方が、臨場感もあり楽しくできました。2日目に体調が悪い学生のため、オンラインも可能としたハイブリッド形式をとりました。

### Ⅲ. 管理事項の概要

#### Ⅰ. 役員等に関する事項

##### 1. 2023年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	菖蒲田 清孝	マツダ株式会社 代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社 常務執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	山 内 真	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	漆 原 正 浩	公益財団法人広島市文化財団 常務理事
理 事		非常勤	大 下 浄 治	広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授
理 事		非常勤	岡 畠 鉄 也	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学 名誉教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士
監 事		非常勤	前 田 真 二	マツダ株式会社 財務本部本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学 名誉教授
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学学長
評 議 員		非常勤	金 井 誠 太	マツダ株式会社 相談役
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	菅 田 淳	広島大学工学部長
評 議 員		非常勤	高 田 輝 和	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	高 見 明 秀	マツダ株式会社 技術研究所 技監
評 議 員		非常勤	長 尾 ひろみ	瀬戸内グローバルアカデミー代表
評 議 員		非常勤	森 永 力	県立広島大学学長
評 議 員		非常勤	山 田 陽 一	山口大学工学部長、大学院創成科学研究科長
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学 名誉教授
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 名誉相談役

(五十音順・敬称略)

##### 2. 役員等の異動状況

- ・石川 文雄氏は2022年6月28日に評議員を退任し、高田 輝和氏が2022年6月28日に評議員に就任した。
- ・竹林 守氏は2022年6月28日に評議員を退任し、金井 誠太氏が2022年6月28日に評議員に就任した。
- ・堤 宏守氏は2022年6月28日に評議員を退任し、山田 陽一氏が2022年6月28日に評議員に就任した。
- ・山内 真氏は2023年3月31日に理事を退任し、井上 紀文氏が2023年4月1日より理事に就任。

## II. 職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局長	山内 真	・事務局統括
事務局長代理	井上 紀文	・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
事務局長代理	加藤 貴史	・理事会、評議員会等の運営に関する事項 ・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・広報等に関する事項
事務局	六鹿 彰吾	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項

## III. 理事会・評議員会等、主な活動事項

### (理事会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第51回理事会	2022年6月3日	第1号議案 2021年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補2名推薦の件 第3号議案 第18回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1) 2022年度科学技術振興関係事業助成の件 2) 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第52回理事会 (決議の省略)	2022年6月29日	議案 業務執行理事及び常務理事選定の件 [報告事項] 公益法人の事業報告書等の提出書類の件	原案どおり承認可決
第53回理事会 (決議の省略)	2022年9月26日	第1号議案 第38回(2022年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第39回(2023年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第54回理事会	2023年3月13日	第1号議案 2023年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第39回(2023年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 第3号議案 選考委員13名選出の件 第4号議案 事務局長交代の件 第5号議案 理事候補1名推薦の件 第6号議案 常務理事及び業務執行理事選定の件 第7号議案 第19回評議員会招集に関する件 [報告事項] 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

### (評議員会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第18回評議員会	2021年6月28日	第1号議案 2021年度決算承認の件 第2号議案 理事2名選任の件 第3号議案 評議員13名選任の件 [報告事項] 1) 2021年度事業報告の件 2) 2022年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第19回評議員会 (決議の省略)	2023年3月31日	議案 理事1名選任の件	原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 ー上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第38回マツダ研究助成候補の募集	2022.4～5	科学技術振興関係
第38回 マツダ事業助成候補の募集	2022.4～5	科学技術振興関係
第38回マツダ研究助成候補の募集	2022.4～6	青少年健全育成関係
第38回(2022年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈	2022.4	助成30 団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催	2022.12～2023.3	広島大学等との連携事業
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	2023.3	広島大学等との連携事業
科学わくわくプロジェクト「小学校理科ひろば」	2022.7～2023.2	授業実践講座または模擬授業
大学講義(市立大学)	2022.5	集中講義およびボランティア実習
2022年度選考委員会(科学技術振興関係)	2022.7.29	第38回マツダ研究助成対象の審議・選出
2022年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	2022.8.3	第38回マツダ研究助成対象の審議・選出
感動塾・みちくさ	2022.8	(公財) 広島市文化財団と共催
第38回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	2022.10～11	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第38回(2022年度)青少年健全育成市民活動支援 の募集	2022.10～2023.1	広島県、山口県内の各市町村や支援団体 検索サイト等を通じて告知
第2回若ツナサミット開催	2022.12.18	若者×ツナグバの成果報告会および若者 の意見交換会の実施
第40回講演会	2023.2.7	講師：井村雅代氏、演題：「人を育てる」
2023年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	2023.2.24	第39回市民活動支援対象の審議・選出
若者×ツナグバ 選考プレゼン審査	2022.3.4	若者×ツナグバ支援対象の審議・選出

IV. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣総理大臣 (内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2022年6月30日	事業報告等の提出
内閣総理大臣 (内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2022年7月29日	理事・評議員変更の届出
内閣総理大臣 (内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	2023年3月21日	事業計画書等の提出

V. 登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	2022年7月14日	理事及び評議員の変更登記 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022年6月28日 石川 文雄氏 評議員を退任</li> <li>・ 2022年6月28日 高田 輝和氏 評議員に就任</li> <li>・ 2022年6月28日 竹林 守氏氏 評議員を退任</li> <li>・ 2022年6月28日 金井 誠太氏 評議員に就任</li> <li>・ 2022年6月28日 堤 宏守氏 評議員を退任</li> <li>・ 2022年6月28日 山田 陽一氏 評議員に就任</li> </ul>

VI. 附属明細書

2022年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。